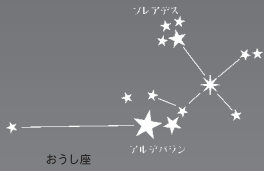


ポラリスを仰ぐ北の大地から



慌しくなる医療界

三笠市医師会 会長 川崎 君王

そろそろ地域医療構想を現実のものとするために、地域の二次医療圏での調整会議がそれぞれの地域で始まり、または始まろうとしています。厚生労働省は日本国の医療制度およびその運用について診療報酬点数の変更で改革でき得ると考えたような時期もあったようであるが、地域の生活者の目線での医療環境の整備は不可能に成りつつあると悟り始めたと思われる。

現在の社会を取り巻く状況は小泉・竹中改革に象徴される新自由主義経済に基づく、適者生存で経済競争を勝ち抜いた者が残り、敗者は退場するものと、かなり乱暴な振る舞いが社会的正義を得てきていた。しかし今回、医療に関して適者生存ではなく、新自由主義経済が最も嫌う調整で地域の病床数を再編しようとしております。また地域に目を転ずると地域の経済活性を惹起しようとして、政府は地方創生と、名前はいいが、地方の経済活性は自身の責任で推進して、運と努力で頑張りなさいと言っています。つまり自己責任で衰退していきなさいと言われているようなものです。小泉・竹中改革は経済の上流では威力を発揮したかもしれないが、国の経済全般に良好な結果をもたらしたとは言い難く、生活者の目線では満足のものではなかったのは確かで、失われた20年と誰にも責任がないと言わんばかりの表現がされています。国民に負担を押し付ける政策、地域経済活性化策と結果次第で政策立案・執行する政府がその能力を問われることについては、自己責任で国民に納得してもらおうようにしようとする政府が意図しているとみるのがあった見方でしょうか。

小泉・竹中改革で経済の上流はそれなりに安泰になったが、地域経済、医療はどうなったかは見ての通りです。現在アベノミクスが先行して、経済の上流が良くなれば、下流へと経済活性化が波及すると言われたが、波及効果が困難で後は自己責任とされそうです。覚めた目で政策執行を見ていきたいものです。



受動喫煙防止対策の条例化へ向けて

美唄市医師会 会長 井門 明

私の生まれ故郷でもある美唄市は、私が実家に戻ってから今年までの13年間で人口が22%減少し、高齢化率は37.7%まで増加しました。高齢化にともない今後さらに医療の必要度は増大することが予想されますが、市内の医師数の減少、診療科の削減など医療過疎が進行し、市内の医療機関で完結できない疾病も増えてきており、救急医療も実質初期救急までしか行っていないのが現状です。

市内の医療資源が十分ではない現状において、予防医療の推進が重要課題であると考えています。そこで、地域住民への啓発活動として、市の広報誌に毎月健康情報の発信を行うほか、市民向けの医療講演会を年間約15回開催しています。毎回多くの市民が参加し、健康維持や疾病予防のために大きな成果を挙げているものと思います。

美唄市医師会は、疾病予防の最大かつ早期の効果が期待できるタバコ対策を最重要課題ととらえ、行政と協力して対策を行ってきました。市民への情報発信を積極的に行い、小中学校での喫煙防止教育、小中学校の敷地内禁煙化、公共施設の禁煙化が実行に移されてきました。そして6年前から市と市議会に何度も要望してきた路上喫煙防止条例は、市から「美唄市受動喫煙防止対策条例」として、さらに大きく進んだ対策を行いたいとの提案を受け、実施に向けて動き出しています。

美唄市は、市民のパブリックコメントを経て、今年3月の市議会への条例の提出を目指していましたが、大手タバコ会社などの妨害により、議会への提案を延期しました。現在、広く市民の意見を聞くための受動喫煙防止対策市民検討委員会において、私も参加し条例の討議が行われており、今年12月の議会提案を目指しています。市民の健康を守るための「美唄市受動喫煙防止対策条例」成立に向けての闘いは、今まさに正念場です。